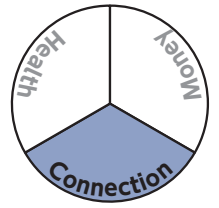


「コロナ婚」で若年層の結婚は増えるのか



経営環境研究部 研究員 世良 多加紘(せら たかひろ)

新型コロナの影響で結婚への関心が高まっている

新型コロナウイルスの感染拡大以降、若年層の間で結婚への関心が高まっています。内閣府の調査によると、20・30歳代の独身者の3割以上が結婚への関心が高まったと回答しました(資料1)。また、全世代の合計ではありますが、家族の重要性についても半数近くの人が「より意識するようになった」と答えました。これは、危機に直面したことで家族の重要性が見直され、パートナーとのつながりや支え合いをより求めるようになったためと考えられます。こうした傾向は東日本大震災の後にも見られ、結婚願望の高まりとともに「震災婚」や「絆婚」といった言葉が話題になりました。

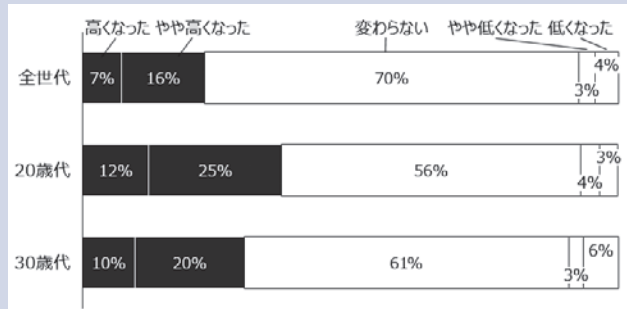
「出会いの場」「経済状況」の改善がカギ

それでは、新型コロナウイルスの影響によって、今後、若年層の結婚は増えるのでしょうか。国立社会保障・人口問題研究所の調査によると、25～34歳未婚者の結婚できない理由として、「適当な相手にめぐり合わない」と「結婚資金が足りない」が多くを占めており、この2つが大きなハードルになっていることがわかっています(資料2)。

現在、新型コロナウイルスの収束が見通せないなか、人々の出会いは減り、収入への不安が高まるなど、結婚を取り巻く状況はさらに厳しいものとなっています(資料3)。このままでは結婚を望んでいても、いい相手と出会えない人や、経済的事情により結婚に踏み切れない人がこれまで以上に増加し、婚姻数が減少する可能性があります。

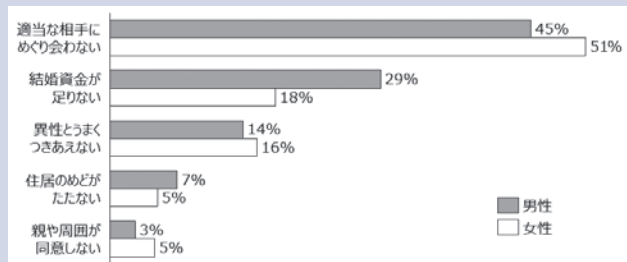
このため、一部自治体では、オンラインの婚活イベントを主催し、ウィズコロナでの出会いの場を提供しています。また、国は、国民の生活基盤安定のために、コロナ禍に対する経済政策を進めています。ウィズコロナ環境下で結婚への関心が高まるなか、結婚を望む若年層を後押しするためには、こうした政策の充実により結婚へのハードルを低減させることが求められるのではないのでしょうか。

資料1 新型コロナウイルス影響下における結婚への関心の変化



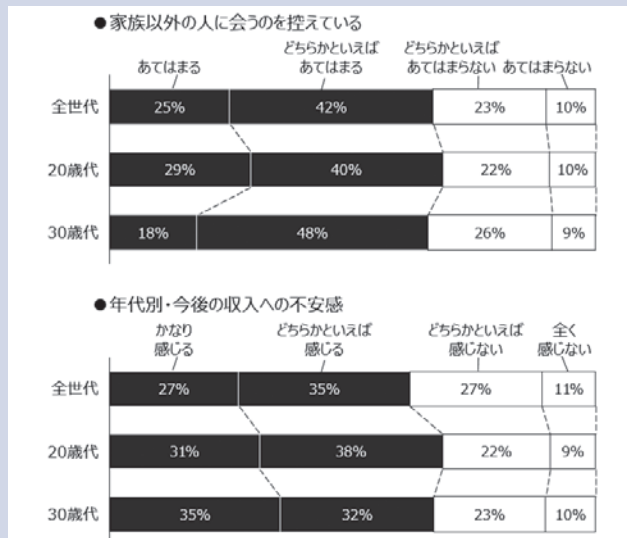
(注)調査期間2020年5月25日～6月5日
(出所)内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」より第一生命経済研究所作成。

資料2 結婚できない理由(25～34歳未婚者)



(出所)国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査」より第一生命経済研究所作成

資料3 家族以外の人に会うのを控えている割合および年代別・今後の収入への不安感



(注)第一生命経済研究所は、調査期間2020年4月3日～4日
生産性本部は、調査期間2020年5月11日～13日
(出所)上図は、第一生命経済研究所「新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査」、下図は、日本生産性本部「新型コロナウイルスの感染拡大が働く人の意識に及ぼす調査」より作成